

Sun Server X2-4 (旧 Sun Fire X4470 M2) プロダクトノート

Release 1.5

ORACLE®

Part No: E37963-03
2015 年 8 月

Part No: E37963-03

Copyright © 2014, 2015, , Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
1 Sun Server X2-4 プロダクトノート	9
Sun Server X2-4 の名前の変更	9
サポートされるオペレーティングシステム	10
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux	12
サポートされるファームウェアおよびソフトウェア	12
ソフトウェアリリースのサポートされるファームウェア	13
サポートされている診断	13
ファームウェアの更新	13
サポートされるソフトウェア	14
サポートされるメモリー構成	14
サポートされる PCIe カード	15
数量およびスロットの制限	15
PCIe カードのファームウェアリビジョンの最低要件	17
Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの要件	17
カードの配置と冷却	18
ESM 交換間隔	19
内蔵 Sun Storage 6Gb SAS PCIe RAID HBA の要件	19
Sun Storage 10GbE FCoE PCIe Low Profile Dual Port CNA および OS のサポート	19
解決済みの問題	20
既知の未解決の問題	24
ハードウェアの既知の問題	24
BIOS の既知の問題	25
Oracle Solaris の既知の問題	26
Oracle Linux、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および Red Hat Enterprise Linux (RHEL) の既知の問題	28
Oracle VM の既知の問題	33
Windows の既知の問題	33
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の既知の問題	35

Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題	35
2 サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	39
ファームウェアとソフトウェアの更新	39
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	40
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	40
ファームウェアとソフトウェアの入手	41
▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード	41
物理メディアのリクエスト	42
物理メディアのリクエスト用の情報を収集する	43
更新のインストール	45
ファームウェアのインストール	45
ハードウェアドライバと OS ツールのインストール	46

このドキュメントの使用方法

- 概要 – Sun Server X2-4 でサポートされるソフトウェアとファームウェア、新機能、既知の問題と解決済みの問題、および操作に関する重要なガイドラインについて説明します
- 対象読者 – 技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダ
- 前提知識 – ハードウェアのトラブルシューティングや交換に関する豊富な経験

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは http://docs.oracle.com/cd/E20781_01/index.html で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

◆◆◆ 第 1 章

Sun Server X2-4 プロダクトノート

このドキュメントでは、Oracle の Sun Server X2-4 に関する解決済みの問題および既知の問題を示します。それぞれの問題は、Oracle 保守要員の参照用に提供されるバグ ID 番号と関連付けられています。必要に応じて、保守要員はそのバグ ID 番号を参照して詳細情報を入手できます。

これらのプロダクトノートには、次の情報が含まれます。

- [9 ページの「Sun Server X2-4 の名前の変更」](#)
- [10 ページの「サポートされるオペレーティングシステム」](#)
- [12 ページの「サポートされるファームウェアおよびソフトウェア」](#)
- [14 ページの「サポートされるメモリー構成」](#)
- [15 ページの「サポートされる PCIe カード」](#)
- [20 ページの「解決済みの問題」](#)
- [24 ページの「既知の未解決の問題」](#)

Sun Server X2-4 の名前の変更

このサーバーは以前は Sun Fire X4470 M2 という名前でした。Sun Server X2-4 という名前の意味は次のとおりです。

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 2 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 4 は、プロセッサの数を意味します。

サポートされるオペレーティングシステム

次のハードウェア互換性リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムのバージョンが示されています。Sun Server X2-4 サーバーでサポートされる最新のオペレーティングシステムのバージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

- Oracle Solaris – <http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>
- Oracle Linux – <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Oracle VM – <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Windows – <http://www.windowsservercatalog.com/>
- VMware ESXi – <http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php>
- Red Hat Enterprise Linux – <http://www.redhat.com/en>
- SUSE Linux Enterprise Server – <https://www.suse.com/yessearch/Search.jsp>

次の表に、Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムと仮想マシンソフトウェアの一覧を示します。サポートされるオペレーティングシステムおよびソフトウェアは、リリースごとに蓄積されます。つまり、新しいソフトウェアリリースには以前のソフトウェアリリースのすべてのコンポーネントが含まれます。

ソフトウェアリリース	サポートされるオペレーティングシステム
1.5	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Linux 6.6 および 7.1 (64 ビット) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 および 7.1 (64 ビット) ■ Oracle VM 3.3.2 ■ Oracle Solaris 11.2 (インストール済み)
1.4.2	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Linux 6.5 および 5.10 (64 ビット) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.5 および 5.10 (64 ビット)
1.4.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Linux 6.4 (64 ビット) (インストール済み) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.9 および 6.4 (64 ビット)
1.4	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 11.1 (インストール済み) ■ VMware ESXi 5.1 ■ Oracle Linux 5.9 (64 ビット) ■ Oracle VM 3.2.1 (インストール済み)
1.3.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 11 11/11 SRU9.5

ソフトウェアリリース	サポートされるオペレーティングシステム
	<ul style="list-style-type: none"> ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.3 (64 ビット) ■ Oracle VM 3.1.1 ■ VMware ESXi 5.0 U1
1.3	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 11 11/11 ■ Oracle VM 3.0.3 ■ Oracle VM 3.0.2 ■ Oracle Linux 5.8 (64 ビット) ■ Oracle Linux 6.2 (64 ビット) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.8 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2
1.2	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 8/11, 10 9/10 ■ Oracle Solaris 11 ■ Oracle VM 3.0.1 ■ Oracle Linux 5.7 (64 ビット) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.7 (64 ビット) ■ VMware ESX/ESXi 4.1 U2 ■ VMware ESXi 5.0
1.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 11 Express ■ Oracle Linux 5.6, 6.0, 6.1 (64 ビット) ■ Oracle VM 2.2.2 (64 ビット) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.6 および 6.1 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 R2 SP1 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP4 (64 ビット) ■ VMware ESX/ESXi 4.1 U1
1.0	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 8/11 ■ Oracle Linux 5.5 (64 ビット) ■ Oracle VM 2.2.1 (64 ビット) ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 および 6.0 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 SP2 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux

このリリースの Sun Server X2-4 ソフトウェアでは、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の Release 2 および Release 3 がサポートされています。

- **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux:** Release 2 は、Oracle Linux 5.9、5.10、6.3、および 6.4 にデフォルトでインストールされており、Red Hat Enterprise Linux 5.9、5.10、および 6.4 にインストール可能です。Release 2 は 3.0.16 メインライン Linux カーネルに基づいており、カーネルの最初のバージョン以降にメインライン Linux に組み込まれた改良点と新機能が含まれています。

オペレーティングシステムの互換性およびインストール情報の参照先に関する最新情報については、次の *Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 のリリースノート* を参照してください。

<https://oss.oracle.com/ol6/docs/RELEASE-NOTES-UEK2-QU2-en.html>

- **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux:** Release 3 は、Oracle Linux 6.5 にデフォルトでインストールされており、Oracle Linux 6.4、Red Hat 6.4 および 6.5 にインストール可能です。Release 3 は 3.0.x メインライン Linux カーネルに基づいており、Release 2 のカーネル以降にメインライン Linux に組み込まれた改良点と新機能が含まれています。

オペレーティングシステムの互換性およびインストール情報の参照先に関する最新情報については、次の *Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 のリリースノート* を参照してください。

<https://oss.oracle.com/ol6/docs/RELEASE-NOTES-UEK3-en.html>

サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

Sun Server X2-4 には、最新の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) と BIOS ファームウェアが付属しています。このセクションでは、サポートされる Oracle ILOM および BIOS ファームウェアのバージョンについて説明します。次のセクションがあります。

- [13 ページの「ソフトウェアリリースのサポートされるファームウェア」](#)
- [13 ページの「サポートされている診断」](#)
- [13 ページの「ファームウェアの更新」](#)
- [14 ページの「サポートされるソフトウェア」](#)

ソフトウェアリリースのサポートされるファームウェア

次の表に、このソフトウェアリリースでサポートされている Oracle ILOM および BIOS ファームウェアのバージョンを示します。

ソフトウェアリリース	Oracle ILOM SP ファームウェア	BIOS ファームウェア
1.5	3.1.2.50	16.04.02.00 (Oracle ILOM にバンドルされている)
1.4.2	3.1.2.24.d	16.04.02.00 (Oracle ILOM にバンドルされている)
1.4.1	3.1.2.24.c r81341	16.04.02.00 (Oracle ILOM にバンドルされている)
1.4	3.1.2.24.b r79266	16.04.02.00 (Oracle ILOM にバンドルされている)
1.3.1	3.1.2.24.a r75561	16.04.01.05 (Oracle ILOM にバンドルされている)
1.3	3.1.2.24 r73820	16.04.01.02
1.2	3.0.6.12.a r70287	16.03.01.03
1.1	3.0.16.12 r65661	16.02.01.01
1.0	3.0.14.20 r63740	16.01.01.18

サポートされている診断

次の表に、このリリースのサーバーでサポートされている診断ソフトウェアを示します。

CPLD バージョン	PC-Check バージョン	Oracle VTS
17 (Oracle ILOM にバンドルされている)	6.30s (Oracle ILOM にバンドルされている)	7.0 ps14

ファームウェアの更新

Oracle ILOM または BIOS ファームウェアを再インストールする必要がある場合、またはファームウェアの更新を入手する必要がある場合は、次の My Oracle Support の Web サイトにアクセスします。

<http://support.oracle.com>

最新のファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードする方法については、[第2章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

Java のセキュリティが変更されたため、旧バージョンの Oracle ILOM ファームウェアで Java 7 Update 51 以降を使用した場合、Oracle ILOM リモートコンソールを起動できませんでした。新しい Oracle ILOM ファームウェア (ILOM 3.1.2.24.d 以降) で Java 7 Update 51 以降を使用すると、Oracle ILOM リモートコンソールを起動できます。

サポートされるソフトウェア

Sun Server X2-4 でサポートされているソフトウェアは、Oracle から入手できます。このソフトウェアには、サーバーと一緒に使用するデバイスドライバ、RAID 管理ソフトウェア、およびほかのユーティリティーが含まれています。必要なソフトウェアまたはソフトウェアの更新を入手するには、次の My Oracle Support の Web サイトにアクセスします。

<http://support.oracle.com>

最新のファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードする方法については、[第2章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

サポートされるメモリー構成

Sun Server X2-4 はデュアルランク 4G バイトおよび 8G バイト RDIMM とクワッドランク 16G バイト RDIMM をサポートしています。16G バイトの RDIMM が搭載されたライザーモジュールを 4 つ使用している 2 プロセッサシステムでは、システムメモリーを最大で 512G バイトにすることができます。16G バイトの RDIMM が搭載されたライザーモジュールを 8 つ使用している 4 プロセッサシステムでは、システムメモリーを最大で 1T バイトにすることができます。

- デュアルランク DIMM (2Rx4 とマークされている) にはヒートスプレッダが装備されていません。
- クワッドランク DIMM (4Rx4 とマークされている) には、ヒートスプレッダが装備されています。ヒートスプレッダを装備した DIMM のいちばん上には 2 つの U 字形の金属クリップが付いています。

注記 - デュアルランクとクワッドランクの DIMM を同じメモリーライザー上に混在させると、パフォーマンスが低下します。

サポートされる PCIe カード

このセクションでは、Sun Server X2-4 でサポートされる PCIe カードについて説明します。次の情報について説明します。

- [15 ページの「数量およびスロットの制限」](#)
- [17 ページの「PCIe カードのファームウェアリビジョンの最低要件」](#)
- [18 ページの「カードの配置と冷却」](#)
- [19 ページの「ESM 交換間隔」](#)
- [19 ページの「内蔵 Sun Storage 6Gb SAS PCIe RAID HBA の要件」](#)
- [19 ページの「Sun Storage 10GbE FCoE PCIe Low Profile Dual Port CNA および OS のサポート」](#)

数量およびスロットの制限

次の表に、Sun Server X2-4 でサポートされる PCIe カードの数量およびスロットの制限を示します。「サポートされる最大数量」列は、Oracle がテスト済みでサポートしているカード数を示します。

表 1-1 PCIe カードの数量およびスロットの制限

PCIe カード	サポートされる最大数量	スロットの制限
Sun Dual Port GbE PCIe 2.0 Adapter, MMF 7100482	4	すべてのスロットでサポートされます。
Sun Quad Port GbE PCIe 2.0 Adapter, UTP 7100479	4	すべてのスロットでサポートされます。
Sun Dual Port 10GBase-T PCIe 2.0 Adapter 7100563	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべてのスロットでサポートされます。
Sun Flash Accelerator F20 PCIe カード XTA-FAS-S3IE96GB-N TA-FAS-S3IE96GB-N	6	スロット 9、4、8、7、または 6 でサポートされます。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA	1	スロット 4 でのみサポートされます。詳細については、19 ページの「内蔵 Sun Storage

PCIe カード	サポートされる最大 数量	スロットの制限
SGX-SAS6-R-INT-Z SG-SAS6-R-INT-Z		6Gb SAS PCIe RAID HBA の要件」を参照してください。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵)	1	スロット 2 でサポートされます。
SGX-SAS6-INT-Z SG-SAS6-INT-Z		
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (外付け)	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべてのスロットでサポートされます。
SGX-SAS6-EXT-Z SG-SAS6-EXT-Z		
8 Gb Single FC PCI-Express, QLogic	8	すべてのスロットでサポートされます。
SG-PCIE1FC-QF8-Z SG-XPCIE1FC-QF8-Z		
8 Gb Dual FC PCI-Express, Emulex	8	すべてのスロットでサポートされます。
SG-PCIE2FC-EM8-Z SG-XPCIE2FC-EM8-Z		
8 Gb Single FC PCI-Express, Emulex	8	すべてのスロットでサポートされます。
SG-PCIE1FC-EM8-Z SG-XPCIE1FC-EM8-Z		
8 Gb Dual FC PCI-Express, QLogic	8	すべてのスロットでサポートされます。
SG-PCIE1FC-QF8-Z SG-XPCIE1FC-QF8-Z		
Sun PCIe Quad Gigabit Ethernet UTP Adapter	8	すべてのスロットでサポートされます。
4446A-Z-N		
Sun PCIe Dual Gigabit Ethernet MMF Adapter	8	すべてのスロットでサポートされます。
7281A-2-N		
Sun Dual 10GbE SFP+ PCIe 2.0 Low Profile Adapter	6	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべてのスロットでサポートされます。
1109A-Z		
InfiniBand Quad Data Rate CX2 PCIe Adapter	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべてのスロットでサポートされます。
4242A		
Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe Low Profile, Dual Port Twin-Ax Converged Network Adapter	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべてのスロットでサポートされます。

PCIe カード	サポートされる最大 数量	スロットの制限
SG-PCIEFCOE2-Q-TA SG- XPCIEFCOE2-Q-TA		
Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe Low Profile, Dual Port SR Converged Network Adapter	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 お よび 9) 以外のすべてのスロットでサポートさ れます。
SG-PCIEFCOE2-Q-SR SG- XPCIEFCOE2-Q-SR		

PCIe カードのファームウェアリビジョンの最低要件

次の表に、PCIe カードのファームウェアリビジョンの最低要件を示します。

表 1-2 PCIe カードのファームウェアリビジョンの最低要件

PCIe カード	ファームウェアリビジョンの最低 要件	FRU のリビジョンに含まれる
8 Gb Single FC PCI-Express, QLogic SG-PCIE1FC-QF8-Z	Preload Table v2.5.2	371-4324-02 371-4325-02
8 Gb Dual FC PCI-Express, QLogic SG- PCIE2FC-QF8-Z		
詳細の参照先: http://driverdownloads.qlogic.com/QLogicDriverDownloads_UI/Sun_Details.aspx? productid=928&OSTYPE=Solaris&oemid=124&category=3		
InfiniBand Quad Data Rate CX2 PCIe Adapter 4242A	2.7.8130	375-3606-03
詳細の参照先: http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=firmware_table_Sun		
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、内蔵 SGX-SAS6-INT-Z SG-SAS6-INT-Z	05.00.17.00	375-3640-01 rev. 51

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの要件

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カード要件について説明する次のセクションを確認してください。

- 18 ページの「カードの配置と冷却」
- 19 ページの「ESM 交換間隔」

カードの配置と冷却

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードを使用する場合、適切な取り付けと冷却のために次の要件を満たす構成にする必要があります。

- デバイスを Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの内蔵 SAS/SATA ポートに接続しないでください。Sun Server X2-4 では、このカードを内蔵ホストバスアダプタ (HBA) として使用することはサポートしていません。
- HBA は、PCIe スロット 9、4、8、7、または 6 にのみ任意の順序で設置できます (この HBA で使用するスロットはスロット 9 が最適です。スロット 6 も使用できますが、お勧めしません)。

注記 - Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA を使用する場合、その HBA をスロット 4 に取り付ける必要があるため、スロット 4 は Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードに使用できません。

- Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードを使用する場合、ソフトウェアバージョン 1.1 以降で使用可能な Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用する必要があります。
- サーバーで Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 以前のリリースを実行している場合は、Enhanced PCIe Cooling Mode Policy を有効にする必要があります。「Enhanced PCIe Cooling Mode Policy」については、『*Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Server X2-4*』を参照してください。
- この HBA がスロット 9 または 4 あるいはその両方にのみ設置されている場合、サーバーの周囲温度の要件は次の温度のままになります。
 - 動作時温度: 5 °C - 35 °C (41 °F - 95 °F)
 - 非動作時温度: -40 °C - 70 °C (-40 °F - 158 °F)
- この HBA がスロット 8、スロット 7、またはスロット 6 に設置される場合、サーバーの周囲温度の要件は次のように修正されます。
 - 動作時温度: 5 °C - 32 °C (41 °F - 89.6 °F)

ESM 交換間隔

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードには、エネルギーストレージモジュール (ESM) と呼ばれるコンポーネントが組み込まれています。このコンポーネントには、バッテリーバックアップと同様の機能があります。ESM は、電源異常時のデータの保護と最適なカードパフォーマンスの実現に重要な役割を果たします。ESM がオンラインで、正常に機能している場合、カードはライトバックモードで動作して最適なパフォーマンスを実現します。ESM が正常に機能していない場合、カードは即時書き込み (ライトスルー) モードで動作します。ライトスルーモードでデータがセキュリティ保護されている間は、パフォーマンスが大幅に低下します。

ESM の予想される寿命に基づき、最適なカードパフォーマンスを維持するために、3 年ごとに ESM を交換してください。推奨する保守間隔で ESM を交換しないと、蓄積エネルギーのレベルが時間とともに低下します。電源異常時に、書き込み動作を完了するために必要なエネルギーが蓄積されていなかった場合には、カードに格納されたデータが失われる恐れがあります。

内蔵 Sun Storage 6Gb SAS PCIe RAID HBA の要件

内蔵 Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID ホストバスアダプタ (HBA) (SGX-SAS6-R-INT-Z または SG-SAS6-R-INT-Z) を使用している場合、適切にバッテリーを冷却するために次の要件を満たす構成にします。

- PCIe スロット 4 に HBA を取り付けます。スロット 4 では、適切にバッテリーが冷却されるよう、HBA 上のバッテリーを通気の良い方向に向けます。スロット 3 が x16 モードで動作できるように、HBA をスロット 2 に移動しないでください。
- このように HBA を取り付けると、サーバーの周囲温度要件は次のようになります。
 - 動作時温度: 5 °C - 32 °C (41 °F - 89.6 °F)

Sun Storage 10GbE FCoE PCIe Low Profile Dual Port CNA および OS のサポート

Windows オペレーティングシステム (OS) は、Sun Storage 10GbE FCoE PCIe Low Profile, Dual Port Twin-Ax/SR Converged Network アダプタ (SG-PCIEFCOE2-Q-TA か SG-XPCIEFCOE2-Q-TA、または SG-PCIEFCOE2-Q-SR か SG-XPCIEFCOE2-Q-SR) ではサポートされません。この既知の問題の詳細については、[33 ページの「Windows の既知の問題」](#)を参照してください。

解決済みの問題

次の表に、Sun Server X2-4 に関する解決済みの問題を示します。

表 1-3 解決済みの問題

バグ ID	説明
15792374	<p>改訂されたパーツ番号を持つ DIMM で、<code>fmadm replaced</code> コマンドが機能しません。</p> <p>問題:</p> <p>障害データベース内の DIMM パーツ番号と元の DIMM パーツ番号が一致しない場合、<code>fmadm replaced</code> コマンドが失敗します。たとえば、あるブランドの DIMM を別のブランドの DIMM に交換すると、これが発生します。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM 3.1.2.2.4 r78320 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.a r75561 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.b r79266 <p>使用可能な修正:</p> <p>Oracle ILOM 3.1.2.24.c r81341</p>
15786494	<p><code>ipmitool fru</code> の出力で DIMM の FRU (フィールド交換可能ユニット) パーツ番号が正しく報告されません。</p> <p>問題:</p> <p><code>ipmitool fru</code> の出力で、DIMM の製品パーツ番号が、適切なベンダー識別番号 (たとえば、M393B2G70BH0-YK0) ではなく 001-0003-01 として返されます。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM 3.1.2.2.4 r78320 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.a r75561 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.b r79266 <p>使用可能な修正:</p> <p>Oracle ILOM 3.1.2.24.c r81341</p>
16698649	<p>DIMM の FRU (フィールド交換可能ユニット) パーツ番号としてプレースホルダ値 001-0003-01 が表示されます。</p> <p>問題:</p> <p>FMA (Fault Management Architecture) メッセージで、DIMM の製品パーツ番号が、適切なベンダー識別番号 (たとえば、M393B2G70BH0-YK0) ではなく 001-0003-01 として返されます。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p>

バグ ID	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM 3.1.2.2.4 r78320 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.a r75561 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.b r79266 <p>使用可能な修正:</p> <p>Oracle ILOM 3.1.2.24.c r81341</p>
15814174	<p>permitted_power が 2560W を超えると、Oracle ILOM イベントログで電源ユニットの不正な値が報告されることがあります。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle ILOM イベントログで電源ユニット /SYS/VPS の不正な値が報告されることがあります。例: 122 08/31/2012 21:10:20 Power Unit /SYS/VPS Upper Non-critical going low Reading 70 < Threshold 280 Watts</p> <p>128 08/31/2012 21:26:14 Power Unit /SYS/VPS Upper Non-critical going high Reading 450 > Threshold 270 Watts.</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM 3.1.2.2.4 r78320 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.a r75561 ■ Oracle ILOM 3.1.2.24.b r79266 <p>使用可能な修正:</p> <p>ILOM 3.1.2.24.c r81341</p>
15623738	<p>1 つまたは複数の PCIe カードの追加後に NIC ポートの列挙に変更が生じる場合があります。</p> <p>問題:</p> <p>Sun Server X2-4 では PCIe バスの番号付けが動的であるため、1 つまたは複数の PCIe カードをサーバーに追加したあとに、ネットワークインタフェースカード (NIC) ポートの列挙が変更されることがあります。たとえば、igb2、igb3 が igb4、igb5 に変更される場合があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべてのバージョンの Oracle Solaris <p>使用可能な修正:</p> <p>これは、意図した製品の動作です。問題を回避するには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>#echo #path_to_inst_bootstrap_1 > /etc/path_to_inst #reboot</pre>
15727517	<p>オペレーティングシステムの無人インストールモードは Oracle Hardware Installation Assistant 2.5.7.2 でサポートされていません。</p> <p>問題:</p>

バグ ID	説明
	<p>オペレーティングシステムの無人インストールモードの状態ファイルを作成できますが、現在の無人インストール方法は、Oracle Hardware Installation Assistant 2.5.7.2 で動作しません。インストールプロセスを続行するには、オペレーティングシステムのインストール URL を手動で入力する必要があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 SP2 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) ■ Oracle Hardware Installation Assistant ■ すべての Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース <p>回避方法:</p> <p>Linux ベース (Oracle、Red Hat、または SUSE) のシステムまたは Windows XP システムを使用して、Oracle Hardware Installation Assistant USB フラッシュドライブを作成します。Linux または Windows の手順については、『<i>Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版</i>』(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia) を参照してください。</p> <p>使用可能な修正:</p> <p>この問題はソフトウェアリリース 1.2 で修正されました。</p>
15711861	<p>Windows 2008 R2 オペレーティングシステムが実行されているシステムの使用時に、Oracle Hardware Installation Assistant が自動実行されません。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle Hardware Installation Assistant には、Windows ベースシステムでブート機能を持つ USB フラッシュドライブを作成する際に役立つ自動実行ユーティリティが付属しています。Windows 2008 R2 オペレーティングシステム用の Oracle Hardware Installation Assistant 自動実行ユーティリティが動作しません。Oracle Hardware Installation Assistant CD/DVD の使用時、または ISO イメージファイルのマウント時に、最初のアプリケーション画面が表示されません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 SP2 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) ■ Oracle Hardware Installation Assistant ■ ソフトウェアリリース 1.1 <p>使用可能な修正:</p> <p>この問題はソフトウェアリリース 1.2 で修正されました。</p>
15708395	<p>Windows 2008 SP2 または R2 オペレーティングシステムのインストール後に、システムのデバイスマネージャーに不明なデバイスが表示されます。</p> <p>問題:</p>

バグ ID	説明
	<p>Oracle Hardware Installation Assistant を使用した Windows 2008 SP2 または R2 オペレーティングシステムのインストール後に、システムのデバイスマネージャーに不明なデバイスが表示されます。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows Server 2008 SP2 (64 ビット)■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット)■ Oracle Hardware Installation Assistant■ ソフトウェアリリース 1.0 および 1.1 <p>使用可能な修正:</p> <p>この問題はソフトウェアリリース 1.2 で修正されました。</p>
15759843	<p>Windows Server 2008 SP2 が 1T バイトのメモリーで絶えずリブートします。</p> <p>問題:</p> <p>Windows Server 2008 SP2 を 1T バイトのメモリーを搭載した Sun Server X2-4 にインストールすると、システムが絶えずリブートします。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows Server 2008 SP 2 (64 ビット) <p>使用可能な修正:</p> <p>次の手順を実行して、BIOS で 1T バイトのメモリーをサポートできるようにします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. システムを BIOS でリブートします。2. 「BIOS SETUP UTILITY IO/MMIO」>「IO/MMIO Ration Configuration」>「MMIOL Reclaim」>「Disabled」の順に選択して、「MMIOL Reclaim」のステータスを「Enabled」から「Disabled」に変更します
15711616	<p>Oracle Hardware Installation Assistant で generate-netboot.img.sh ファイルが動作しません。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle Hardware Installation Assistant のルートフォルダにある generate-netboot.img.sh ファイルが機能しません。generate-netboot.img.sh ファイルは、Oracle Hardware Installation Assistant の PXE インストールに使用される netboot.img ファイルを作成するために使用されます。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Hardware Installation Assistant■ ソフトウェアリリース 1.0 および 1.1 <p>使用可能な修正:</p> <p>この問題はソフトウェアリリース 1.2 で修正されました。</p>

バグ ID	説明
15694676	<p>Oracle VTS の実行中にエラーメッセージが報告されます。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle VTS の実行中に、「Sun OEM Get LED command Failed: Desination Unavailable」というエラーメッセージが報告されます。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle VTS 7.0 PS10 ■ すべての Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース <p>使用可能な修正:</p> <p>この問題は Oracle VTS 7.0 PS13 で修正されました。</p>

既知の未解決の問題

次の表に、Sun Server X2-4 に関する既知の未解決の問題および回避方法を示します。

- [24 ページの「ハードウェアの既知の問題」](#)
- [25 ページの「BIOS の既知の問題」](#)
- [26 ページの「Oracle Solaris の既知の問題」](#)
- [28 ページの「Oracle Linux, SUSE Linux Enterprise Server \(SLES\)、および Red Hat Enterprise Linux \(RHEL\) の既知の問題」](#)
- [33 ページの「Oracle VM の既知の問題」](#)
- [33 ページの「Windows の既知の問題」](#)
- [35 ページの「Oracle Integrated Lights Out Manager \(ILOM\) の既知の問題」](#)
- [35 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題」](#)

ハードウェアの既知の問題

表 1-4 ハードウェアの既知の未解決の問題

バグ ID	説明
なし	<p>デュアルランクとクワッドランクの DIMM を混在させないでください。</p> <p>問題:</p>

バグ ID	説明
	<p>Sun Server X2-4 は、デュアルランクおよびクワッドランクの DIMM をサポートするようになりました。ただし、デュアルランク DIMM とクワッドランク DIMM を同じメモリーライザー内に混在させると、パフォーマンスが低下します。</p> <p>影響を受けるハードウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Server X2-4 <p>回避方法:</p> <p>同じサーバーでデュアルランクとクワッドランクの DIMM を混在させないでください。</p>

BIOS の既知の問題

表 1-5 BIOS の既知の未解決の問題

バグ ID	説明
15576675	<p>BIOS で報告されるメモリー量が、実際に組み込まれたメモリーより少なくなります。</p> <p>問題:</p> <p>BIOS のスプラッシュ画面および BIOS 設定ユーティリティのメインメニューで、メモリー容量がインストールされている容量よりも 8M バイト少なく表示されますが、これは Intel アーキテクチャーでデバッグメモリーに 8M バイト消費されるためです。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべての Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース <p>回避方法:</p> <p>回避方法はありません。</p>
15725542	<p>Pc-Check 診断の実行後、PXE ブートが失敗することがあります。</p> <p>問題:</p> <p>Pc-Check を拡張モードで実行した直後に PXE ブートを試みると、次のようなメッセージを表示して、ブートが失敗することがあります。</p> <p>Intel(R) Boot Agent GE v1.3.35 Copyright (C) 1997-2009, Intel Corporation Intel(R) Boot Agent PXE Base Code (PXE-2.1 build 087) Copyright (C) 1997-2009, Intel Corporation</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM 3.0.16.12 が動作しているソフトウェアリリース 1.1、および Pc-Check 6.29s を実行する BIOS 16.02.01.01 <p>回避方法:</p> <p>システムの電源を再投入するかウォームリブートします。</p>

バグ ID	説明
15707452	<p>BIOS POST 時に、DIMM DDR トレーニングエラーに対して不正な IPMI 警告コードが生成されます。</p> <p>問題:</p> <p>システムの BIOS POST 時に、DIMM DDR トレーニングエラーに対して不正な IPMI 警告コードが生成されます。Service Required LED がエラーを示し、システムイベントログ (SEL) エントリに次の警告コードが表示されることがあります。</p> <pre>0x0d WARN_DD_TRAINING_ERROR warning: 0x02 - WARN_DIMM_MISMATCH 0x03 - WARN_USER_RANK_DISABLE 0x05 - WARN_MEMBIST_ECC_SYMBOL 0x09 - WARN_THROT_INSUFFICIENT</pre> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべての Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース <p>回避方法:</p> <p>これらのエラーメッセージは無視して差し支えありません。</p>

Oracle Solaris の既知の問題

表 1-6 Oracle Solaris の未解決の既知の問題

バグ ID	説明
15781718	<p>Oracle Solaris 11 で「NOTICE: BIOS BUG: Invalid Bus Number in PCI IRQ Routing Table」という警告メッセージが表示されます。</p> <p>問題:</p> <p>オペレーティングシステムのインストール後、Oracle Solaris 11 で警告メッセージが表示されます。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 11 11/11 および 11.1 <p>回避方法:</p> <p>この警告メッセージは無視しても差し支えありません。それは、予期されませんが無害な問題の情報メッセージです。</p>
15760687	<p>RAID 10 用に構成され、Sun Storage 6-Gb SAS PCIe HBA カードが取り付けられた Sun Server X2-4 システムへの Oracle Solaris 10 8/11 インストールの開始時に、システムがパニックを起こします。</p> <p>問題:</p> <p>ハードディスクドライブが内蔵 Sun Storage 6-Gb SAS PCIe HBA カード (SGX-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-INT-Z) に接続されている場合に、RAID 10 用に構成された</p>

バグ ID	説明
	<p>Sun Server X2-4 への Oracle Solaris 10 8/11 のインストール時に、システムパニックが発生することがあります。パニックは HBA mptsas ドライバの既知の問題によって発生します。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 8/11 <p>回避方法:</p> <p>OS インストール時に、mptsas ドライバの Install Time Update (ITU) パッチを適用します。このパニックを解決するための手順は、ITU パッチの ReadMe ファイルに詳しく説明されています。このファイルは、ソフトウェアリリース 1.2 以降の Tools and Drivers DVD の Oracle Solaris フォルダにあります。</p>
15756723	<p>ネットワークストレスの 3 時間後、Oracle Solaris 10 8/11 システムがパニックを起こし、リブートします。</p> <p>問題:</p> <p>長時間のネットワークストレス時に、Solaris 10 8/11 がパニックを起こし、リブートすることがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 8/11 <p>回避方法:</p> <p>パッチ 147441-08 (以降のバージョン) をインストールしてください。このパッチは、My Oracle Support からダウンロードできます。インストールシェルスクリプトを実行し、関連パッチをインストールします。</p>
15726332	<p>Oracle Solaris 10 9/10, Oracle Solaris 10 8/11、または Oracle Solaris 11 Express で Intel SpeedStep 機能が動作しません。</p> <p>問題:</p> <p>Intel SpeedStep 機能は、Oracle Solaris 10 9/10, Oracle Solaris 10 8/11、および Oracle Solaris 11 Express を実行しているシステムで動作しません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 9/10 ■ Oracle Solaris 10 8/11 ■ Oracle Solaris 11 Express <p>回避方法:</p> <p>この問題を解決するには、構成ファイル <code>/etc/power.conf</code> を編集し、<code>cpupm enable</code> を <code>cpupm enable poll-mode</code> に変更します。</p>
15692870	

Oracle Linux、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および Red Hat Enterprise Linux (RHEL) の既知の問題

表 1-7 Oracle Linux、SLES、および RHEL の未解決の既知の問題

バグ ID	説明
15786284	<p>RHEL 6.2 - APEI: GAR の iomem 領域 <000000007f790800-000000007f790804> をリクエストできません。</p> <p>問題:</p> <p>システムがデフォルトのカーネルパラメータを使用してリブートすると、RHEL 6.2 dmesg に次の APEI のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>APEI: GAR の iomem 領域 <000000007f790800-000000007f790804> をリクエストできません。</p> <p>ACPI 仕様 4.x/5.x の APEI ERST 機能のこの矛盾する説明は、Linux で APEI の ERST 機能を使用できないことを示します。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.2 <p>回避方法:</p> <p>カーネルコマンド行に <code>erst_disable</code> を追加して、APEI の ERST を無効にします。dmesg に次の情報が表示されます。ERST: Error Record Serialization Table (ERST) support is disabled.</p>
15776200	<p>SLES 11 SP2 を実行する 2 プロセッサおよび 4 プロセッサのサーバー構成で、dmesg にハードウェアエラーメッセージおよび誤った mcelog エラーが表示されます。</p> <p>問題:</p> <p>2 プロセッサまたは 4 プロセッサのシステムで SLES 11 SP2 が実行されているときに、次のエラーメッセージが表示されることがあります。</p> <p>MCE Error, Status code: d00001000009008f</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 <p>回避方法:</p> <p>エラーメッセージが永続せず、明らかなパフォーマンスの低下がない場合は、それらを見逃してかまいません。エラーメッセージが永続する場合は、周辺のコンポーネントを特定し、交換します。</p>

バグ ID	説明
15780082	<p>RHEL 5.8 および Oracle Linux 5.8 のクラッシュカーネルオプションの値を最低 128M@32M に増やす必要があります。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux を使用する場合、<code>/etc/grub.conf</code> ファイルのクラッシュカーネルオプションのために、メモリ設定を大きくする必要があります。<code>crashkernel1=128M@16M</code> でブートすると、次のエラーが発生します。<code>crashkernel reservation failed - memory is in use.</code></p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Linux 5.8 ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.8 <p>回避方法:</p> <p>クラッシュカーネルオプションの最小値は 128M@32M です。システム構成に応じて、さらに値を大きくする必要がある場合があります。<code>kdump</code> サービスのロードに失敗した場合、2 つ目の値 (32M) を増やします。コアダンプの作成時にシステムがハングアップするか、クラッシュする場合、最初の値 (128M) を増やします。</p>
15759139	<p>Quad Gigabit Ethernet UTP PCIe および Dual Gigabit Ethernet PCIe オプションカードは SLES 10 SP4 XEN で動作しません。</p> <p>問題:</p> <p>SLES 10 SP4 XEN で、Quad Gigabit Ethernet UTP PCIe (X4446A-Z) および Dual Gigabit Ethernet PCIe (X7281A) は、XEN カーネルの問題のため正常に動作しません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP4 <p>回避方法:</p> <p>この問題は SLES 11 SP1 XEN カーネルで修正されましたが、SLES 10 SP4 XEN カーネルではこの問題の回避方法がありません。</p>
15761043	<p>SLES 11 SP1 XEN および Oracle VM 3.0.2 で <code>map_irq failed</code> が報告されることがあります。</p> <p>問題:</p> <p>SLES 11 SP1 XEN および Oracle VM 3.0.2 で <code>map_irq failed</code> が報告されることがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 ■ Oracle VM 3.0.2 <p>回避方法:</p>

バグ ID	説明
	GRUB ファイルのカーネル行に次を追加します。 <code>extra_guest_irqs=64,2048 nr_irqs=2048</code>
15636521	<p>Oracle Linux 5.5, RHEL 5.5, および SLES11 SP1 の使用できる割り込みベクトルの数が限定されています。</p> <p>問題:</p> <p>インスタンスごとに複数の MSI ベクトルを使用するドライバのある高帯域幅 I/O カードが多数含まれる、特定のハードウェア構成では、カーネルで割り込みが不足する場合があります。この状況によって、ブート時に長い一時停止またはシステムハングが発生する場合や、必要な割り込みを取得できないドライバインスタンスが原因で I/O デバイスが使用できない状態になる場合があります。この状況は、特に、SR-IOV を使用する複数の InfiniBand および 10GbE ネットワークカードのある Xen Hypervisor および Dom0 で発生する可能性があります、SMP カーネルでも発生する場合があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Linux 5.5■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 <p>回避方法:</p> <p>カーネル引数 <code>pci=noms</code> を使用してブートすると、UDEV での長い一時停止やシステムハングが発生することなくシステムをブートできます。ただし、システムは関数ごとに単一の IO-APIC PIN 割り込みを使用するよう強制されます。IO-APIC 割り込みではなく MSI が必要な場合は、問題を軽減するために次の方法のいくつかを組み合わせる必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ テキストファイル <code>/etc/modprobe.d/blacklist</code> にモジュール名を追加して、一部のドライバのブラックリストを作成します。これにより、モジュールでデバイスのロードおよび使用が回避されます。■ 特定のドライバ (<code>mlx4_core</code> : <code>infiniband</code> など) を強制的に最後にロードし、そのドライバで、最適な MSI 数のベクトルを要求するコードを利用します。そのようなベクトルを使用できない場合、ベクトル数を少しずつ減らして再試行してください。
15718589	<p>Oracle Linux 5.6 はオンボード Intel 82576 ネットワークインタフェースカード (NIC) ポートにメモリー領域を割り当てできません。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle Linux 5.6 は、Intel SR-IOV 機能をサポートするオンボード Intel 82576 ネットワークインタフェースカードに対して、「PCI: Failed to allocate mem resource」を表示します。Oracle Linux 5.6 は、Intel の SR-IOV 機能によってエクスポートされる仮想機能に必要なメモリー領域を割り当てようとしています。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Linux 5.6 以降 <p>回避方法:</p>

バグ ID	説明
	まず、BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」タブで、SR-IOV サポートおよび ARI サポート機能を有効にする必要があります。
15691490	<p>RHEL 6.0 が実行されているときにエラーメッセージを受信します。</p> <p>問題:</p> <p>サーバーで RHEL 6.0 が実行されているときに、次のメッセージを受信することがあります。</p> <pre>EDAC MC: Ver: 2.1.0 Sep 1 2012 PCI: Discovered peer bus ff PCI: Discovered peer bus f3 EDAC i7core: Driver loaded. i7core_edac: probe of 0000:80:14:0 failed with error -22</pre> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.0 <p>回避方法:</p> <p>これは仕様どおりの動作であり、このエラーメッセージを無視しても問題ありません。</p>
15705525	<p>I/O の処理量が多いときに <code>lspci -vv</code> コマンドを繰り返し実行すると、RHEL 6.0 が実行されているシステムがリセットされることがあります。</p> <p>問題:</p> <p>I/O の処理量が多いときに <code>lspci -vv</code> コマンドを繰り返し実行すると、RHEL 6.0 が実行されているシステムがリセットされることがあります。この問題は、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-INT-Z) または Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z または SG-SAS6-R-INT-Z) カードがシステムに取り付けられている場合に発生します。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.0 以降 <p>回避方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システムがアイドル状態の場合にのみ、<code>lspci -vv</code> コマンドを実行してください。短い間隔で <code>lspci -vv</code> コマンドを実行しないでください。 ■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA または Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA のファームウェアを最新バージョンにアップグレードします。
15697578	<p>Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA または Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA で構成されているシステムで、RHEL 5.5 および LSI MegaRAID Storage Manager を実行すると、エラーメッセージを受信します。</p> <p>問題:</p> <p>この問題は、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID、内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z または SG-SAS6-R-INT-Z) または Sun Storage 6 Gb SAS PCIe、内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-INT-Z) で構成されているシステムに適用します。デフォルトの RHEL 5.5 インストールオプションとデフォルトの Security Enhanced Linux</p>

バグ ID	説明
	<p>(SELinux) ソフトウェア構成設定を使用して、RHEL 5.5 オペレーティングシステムを実行している場合、次のエラーメッセージを受信することがあります。</p> <pre>kernel: mrmokernel: mrmonitord[6058]: mrmonitord[15918]: segfault at 00000000ffffffff rip 00000000ffffffff rsp 00000000ffdab11c error 14</pre> <p>これは、SELinux が <code>mrmonitord</code> の、テキスト再配置を必要とする <code>/usr/lib/libAlertStrings.so.1.0.0</code> のロードを妨げるためです。デフォルトの SELinux ソフトウェアモードとポリシーのままではインストールできないため、グラフィカルインタフェースの実行に必要な SELinux Streams (LiS) インタフェースおよび RHEL 5.5 をシステムに適切にインストールできない、というのがこの問題の原因です。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5■ LSI MegaRAID Storage Manager 8.00-5 <p>回避方法:</p> <p>LiS インタフェースをシステムに正しくインストールできるようにするには、次に示す回避方法のいずれかまたは両方を実行します。次に示す回避方法では、これらのエラーメッセージが表示されないようにするための基本的なステップを説明しています。詳細については、http://www.redhat.com の RHEL 5.5 OS のドキュメントを参照してください。</p> <p>手順 1:</p> <ol style="list-style-type: none">1. GRUB メニューのカーネル行に <code>selinux=0</code> という値を追加して、システムブート時に SELinux ソフトウェアを一時的に無効にします。2. システムブートを続行します。 <p>手順 2:</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code>/etc/selinux/config</code> ファイルを編集し、SELinux ソフトウェアのモードを <code>enforcing</code> から <code>disabled</code> または <code>permissive</code> に変更して、SELinux ソフトウェアを永続的に無効にします。例: <pre># vi /etc/selinux/config SELINUX=disabled</pre> <p>または</p> <pre># vi /etc/selinux/config SELINUX=permissive</pre> <ol style="list-style-type: none">2. システムをリブートします。

Oracle VM の既知の問題

表 1-8 Oracle VM の既知の問題

バグ ID	説明
15786012	<p>dmesg に「dbus-daemon' uses 32-bit capabilities」という警告が表示されます。</p> <p>問題:</p> <p>64 ビットの Oracle VM システムで、dmesg に「warning: 'dbus-daemon' uses 32-bit capabilities (legacy support in use)」という警告が表示されることがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle VM 3.0 <p>回避方法:</p> <p>このメッセージは警告のみであり、無視しても差し支えありません。</p>

Windows の既知の問題

表 1-9 Windows の既知の未解決の問題

バグ ID	説明
15699476	<p>Windows Server 2008 R2 システムで IPMIflash を使用しているときにファームウェアのアップグレードに失敗します。</p> <p>問題:</p> <p>ファームウェアのアップグレードプロセス時に、IPMIflash 1.8.10.4 for Windows Server 2008 R2 (64 ビット) でエラーが発生します。サービスプロセッサの状態は一貫しており、副作用はありません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ IPMIflash 1.8.10.4 ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) <p>回避方法:</p> <p>Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して、Oracle ILOM ファームウェアの更新を実行します。</p> <p>Oracle ILOM 3.0 の手順については、『<i>Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド</i>』または『<i>Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド</i>』を参照してください。これらのドキュメントは、http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30 にあります</p>

バグ ID	説明
	<p>Oracle ILOM 3.1 の手順については、次の場所の『<i>Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 クイックスタートガイド</i>』を参照してください。</p> <p>http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</p>
15702216	<p>サービスプロセッサをリブートすると、Windows Server 2008 R2 システムでシステムのクラッシュが発生します。</p> <p>問題:</p> <p>サービスプロセッサをリブートすると、Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムが実行されているシステムでシステムのクラッシュが発生することがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) <p>回避方法:</p> <p>オンボード Intel 82576 ネットワークインタフェースカード (NIC) の Windows ドライバをバージョン 11.4.7.0 以降にアップグレードします。これらのツールとドライバのファームウェアには、最新の Windows ドライバが付属しています。最新のツールとドライバのファームウェアをダウンロードする方法については、41 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」を参照してください。</p>
15676534	<p>システムをリブートすると、Sun Storage 10GbE FCoE Converged Network Adapter に接続されているすべてのディスクにアクセスできなくなります。</p> <p>問題:</p> <p>Windows オペレーティングシステムが実行されている Sun Server X2-4 に Sun Storage 10GbE FCoE PCIe Low Profile Dual Port Twin-Ax/SR Converged Network Adapter (CNA) (SG-PCIEFCOE2-Q-SR または SG-PCIEFCOE2-Q-TA) をインストールし、システムをリブートすると、その CNA に接続されているすべてのディスクにアクセスできなくなります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 SP2 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) <p>回避方法:</p> <p>回避方法はありません。この Windows オペレーティングシステムは Sun Storage 10GbE FCoE PCIe CNA でサポートされません。</p>
15712471	<p>Windows 2008 R2 WHQL 認証の SMBIOS HCT テストケースが、1T バイトのメモリーで構成されているシステムで失敗します。</p> <p>問題:</p> <p>Windows 2008 R2 ハードウェア品質テスト (WHQL) 認証の SMBIOS HCT テストケースが、1T バイトのメモリーで構成されているシステムで失敗します。ソフトウェアリリース 1.0</p>

バグ ID	説明
	<p>では、Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムを実行しているシステムで、最大 512G バイト (8G バイト x 64) のメモリしかサポートしません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステム:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 R2 (64 ビット) <p>回避方法:</p> <p>Software Release 1.0 の回避方法はありません。ソフトウェアパッチリリース 1.0.1 では、Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムを実行しているシステムで、1T バイト (16G バイト x 64) のメモリをサポートします。</p>

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の既知の問題

表 1-10 Oracle ILOM の既知の未解決の問題

バグ ID	説明
なし	<p>Oracle ILOM リモートコンソールを起動できません</p> <p>問題:</p> <p>Java のセキュリティが変更されたため、以前の Oracle ILOM ファームウェアで Java 7 Update 51 以降を使用した場合、Oracle ILOM リモートコンソールを起動できませんでした。新しい Oracle ILOM ファームウェア (ILOM 3.1.2.24.d) で Java 7 Update 51 以降を使用すると、Oracle ILOM リモートコンソールを起動できます。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM ■ Java 7 Update 51 以降 <p>回避方法:</p> <p>Oracle ILOM ファームウェアのリリース 3.1.2.24.d 以降を使用します。</p>

Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題

表 1-11 Oracle Hardware Installation Assistant の未解決の既知の問題

バグ ID	説明
15731356	<p>Oracle Hardware Installation Assistant CD は BIOS、ファームウェア、オペレーティングシステムドライバのリモート更新をサポートしません。</p> <p>問題:</p>

バグ ID	説明
	<p>Oracle Hardware Installation Assistant CD は、Oracle からの最新のシステム BIOS、ファームウェア、オペレーティングシステムドライバのリモート更新をサポートしません。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Hardware Installation Assistant■ すべての Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース <p>回避方法:</p> <p>現時点では回避方法はありません。</p>
16517092	<p>Oracle Linux OS のブートに失敗することがあります。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle Hardware Installation Assistant を使用して、Oracle Linux オペレーティングシステム (OS) のインストールのために選択したディスクを作成する場合、インストールを完了するためには、Oracle Hardware Installation Assistant を終了してから、作成済みのディスクから Oracle Hardware Installation Assistant をリブートする必要があります。インストールプロセスが停止して、エラーメッセージ「Missing Operating System」が表示されることがあります。この問題は、非常にまれに (Oracle Linux のインストール試行で Oracle Hardware Installation Assistant を使用してディスクを作成する場合の約 5% 未満) しか発生しません。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Hardware Installation Assistant■ Oracle Linux 6.4 および 5.9 <p>回避方法:</p> <p>OS のインストールを完了するためには、Oracle Hardware Installation Assistant を終了したあとで、Oracle Hardware Installation Assistant からリブートする必要があります。ローカルメディアとリモートメディアのいずれかを使用して Oracle Hardware Installation Assistant を起動できます。リモートメディアを使用する場合は、サーバーのサービスプロセッサまたは PXE ネットワークブートイメージでリモートキーボード、ビデオ、マウス (RKVM) を使用して、仮想 CD/DVD から Oracle Hardware Installation Assistant を起動します。Oracle Hardware Installation Assistant が確実に起動するように、選択した起動方法に応じて、それぞれのネットワークが正しく設定されていることを確認します。次に、Oracle Hardware Installation Assistant を起動して、ディスクの作成手順を実行します。</p>
18156539	<p>Oracle Hardware Installation Assistant GUI の起動が失敗することがあります。</p> <p>問題:</p> <p>Oracle Hardware Installation Assistant の起動時に、アプリケーションのグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) の表示に失敗することがあります。この問題は、非常にまれに (Oracle Hardware Installation Assistant の起動試行の約 5% 未満) しか発生しません。</p>

バグ ID	説明
	<p>影響を受けるソフトウェア:</p> <p>■ Oracle Hardware Installation Assistant</p> <p>回避方法:</p> <p>ローカルメディアとリモートメディアのいずれかを使用して Oracle Hardware Installation Assistant を起動できます。リモートメディアを使用する場合は、サーバーのサービスプロセスまたは PXE ネットワークブートイメージでリモートキーボード、ビデオ、マウス (RKVM) を使用して、仮想 CD/DVD から Oracle Hardware Installation Assistant を起動します。Oracle Hardware Installation Assistant が確実に起動するように、選択した起動方法に応じて、それぞれのネットワークが正しく設定されていることを確認します。次に、Oracle Hardware Installation Assistant を起動します。</p>

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

- [39 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」](#)
- [40 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」](#)
- [40 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)
- [41 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [45 ページの「更新のインストール」](#)

ファームウェアとソフトウェアの更新

ファームウェアとソフトウェア (サーバーのハードウェアドライバやツールなど) は定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用可能なすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを含む一連のダウンロード (パッチ) です。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントでは、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースには多くの場合、バグ修正が含まれているため、更新することによって、サーバーソフトウェアと最新のサーバーファームウェアやその他のコンポーネントファームウェアおよびソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイルや、現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれています。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、サーバーの最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Sun Server X2-4 の出荷時にインストール済みの機能で、サーバーファームウェアおよびソフトウェアを簡単に更新できるようにします。

Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『*Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版*』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。

- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームおよびソフトウェアは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support の Web サイトで入手可能なものの詳細については、[40 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法については、[41 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」](#)を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。

詳細は、[43 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには 1 つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。この製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれています。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
Sun Server X2-4 <i>SW_version</i> Firmware (パッチ)	Oracle ILOM および BIOS が含まれます	最新のプラットフォームファームウェアが必要です。
Sun Server X2-4 <i>SW_version</i> Oracle Hardware Installation Assistant (パッチ)	Oracle Hardware Installation Assistant の復旧および ISO 更新イメージが含まれます。	Oracle Hardware Installation Assistant を手動で回復するか更新する必要があります。
Sun Server X2-4 <i>SW_version</i> Tools and Drivers (パッチ)	ツールおよびドライバおよびプラットフォームファームウェアが含まれます。この DVD イメージには Oracle VTS は含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合わせを更新する必要があります。
Sun Server X2-4 (X4470 M2 Server) <i>SW_version</i> Diagnostics (パッチ)	Oracle VTS 診断イメージが含まれます。	Oracle VTS 診断イメージが必要です。

各ダウンロードは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

ファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

更新されたファームウェアおよびソフトウェアを入手する方法は、My Oracle Support を使用する方法と、物理メディアをリクエストする方法の 2 つがあります。次を参照してください。

- [41 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」](#)
- [42 ページの「物理メディアのリクエスト」](#)

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード

1. Web サイト <https://support.oracle.com> にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。

3. 「検索」タブ領域内で、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。
検索フィールドを含む「検索」タブ領域が表示されます。
4. 「製品」フィールドのドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Server X2-4) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。
5. 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
入手可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、リストを展開します。
6. 「検索」をクリックします。
「パッチの詳細検索結果」画面が表示され、ソフトウェアリリースのパッチが一覧表示されます。
入手可能なダウンロードの説明については、[40 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
7. ソフトウェアリリースのパッチを選択するには、ソフトウェアリリースバージョンの横のパッチ番号をクリックします。
Shift キーを使用すると複数のパッチを選択できます。
ポップアップアクションパネルが表示されます。パネルには、「README」、「ダウンロード」、「計画に追加」オプションなど、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連付けられたボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
8. このパッチの ReadMe ファイルを確認するには、「README」をクリックします。
9. ソフトウェアリリースバージョンのパッチをダウンロードするには、「ダウンロード」をクリックします。
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
10. 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの zip ファイルをクリックします。
ソフトウェアリリースバージョンのパッチがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) を行なって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

物理メディアのリクエストを行うためのハイレベルタスクについては、次のセクションを参照してください。

- 43 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
- 43 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」
- 45 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
 - *My Oracle Support* へのアクセス権をお持ちの場合 – 41 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」に記載されている手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあとにダウンロード手順を続行しない場合は、「パッチの詳細検索結果」画面からほかのページに移動できます。
 - *My Oracle Support* へのアクセス権をお持ちでない場合 – 40 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」の情報を使用して、必要なパッケージを確認してから、最新のソフトウェアリリースのパッケージをリクエストします。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、43 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載の情報を収集してください。

1. 次の Web サイトにアクセスします: <https://support.oracle.com>。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの右上隅にある「問合せ」リンクをクリックします。
「サービス・リクエストの作成」の「問題」画面が表示されます。

4. リクエストを次のように記述します。
 - a. 「問題のサマリー」フィールドに、「Sun Server X2-4 の最新ソフトウェアリリースの PMR」と入力します。
 - b. 「問題タイプ」ドロップダウンリストからソフトウェアと OS メディアリクエストに関する項目を選択します。
 - c. 「サポート ID」フィールドに、サポート契約に関連付けられたカスタマサポート ID を入力します。
5. 「サービス・リクエストの作成」の「ソリューション」画面をスキップするため、画面右上隅の「次へ」ボタンを 2 回クリックします。
「サービス・リクエストの作成」の「詳細」画面が表示されます。
6. 次のように、リクエストに関する追加情報を提供します。
 - a. 「追加情報」セクションで、次の表に記載した質問に答えます。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	はい
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	いいえ
CD や DVD でパッチをご希望ですか。	はい
パッチを CD や DVD でご希望の場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X2-4。 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号。
希望されているメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「汎用」と入力します。
この送付に言語は必要ですか。	いいえ

- b. 送付先/連絡先情報 (連絡先の名前、電話番号、電子メールアドレス、会社名、送付先住所など) を入力します。

7. 「次へ」をクリックします。
「サービス・リクエストの作成」の「重大度/連絡先」画面が表示されます。
8. 連絡先電話番号と望ましい連絡手段を入力します。
9. 「送信」をクリックします。
これで、物理メディアのリクエストが完了します。物理メディアを受け取るまで、最大 7 営業日かかる可能性があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[43 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」](#)に記載の情報を収集してください。

1. 次の Oracle Global Customer Support Contacts Directory にある該当する番号を使用して、Oracle サポートに電話をかけます。
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
2. Sun Server X2-4 の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を Oracle サポートに伝えます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、Sun Server X2-4 の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- [45 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [46 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller で最新のファームウェアを Oracle から自動的にダウンロードすることも、Enterprise Controller に手動でロードすることもできます。どちらの場合も、Ops Center でファームウェアを 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシにインストールできます。
詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html> を参照してください。
- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。
- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**
詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html> を参照してください。
- **Oracle Hardware Installation Assistant**
Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『*Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版*』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- JumpStart、KickStart、サードパーティーのツールなどの、その他の配備メカニズム。
詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。